



## メコン地域で活躍する日本の団体の活動概要及び支援の実績



メコン地域で活躍する日本の団体の活動概要及び支援の実績を紹介します。なお、当コーナーで紹介されている活動は、日メコン交流年事務局に対して送付されてきた情報に基づき、当ホームページにおいて広報すべき内容であると判断したものを掲載しています。その内容については、原則として活動団体から提供のあった情報を掲載しており、事務局として何らかの特典や保証を与える趣旨のものではなく、掲載内容に関する紹介については、当該団体に直接問い合わせをして下さい。本件に関して事務局として責任を負うことは一切ありません。

### 【掲載中の団体】

- p.1 金沢美術工芸大学 ミャンマー伝統工芸支援プロジェクト
- p.2 昭和女子大学(国際文化研究所)
- p.3 特定非営利活動法人 国際インフラ調査会
- p.4 認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ)
- p.5 社団法人 土木学会 アジア土木学協会連合協議会(ACECC)  
メコン河流域相互開発に関する技術委員会
- p.8 熊本国際化センター(KIC)
- p.9 財団法人 日本・ベトナム文化交流協会
- p.10 立命館アジア太平洋大学公認学生 NGO 団体 PRENGO
- p.11 THAI MIKASA CO., LTD.
- p.12 ボランティアグループ新原
- p.13 東京国際学園高等部
- p.14 名古屋城北ライオンズクラブ
- p.15 関西外国語大学「『ASEAN+3』大学コンソーシアム」
- p.16 株式会社日立プラントテクノロジー
- p.17 ONEasia(ワンエイジア)
- p.18 特定非営利活動法人ADRA Japan
- p.19 特定非営利活動法人アジア教育友好協会
- p.20 財団法人太平洋人材交流センター
- p.21 千葉県八千代市
- p.22 国際歯科学士会日本部会
- p.23 独立行政法人 国立環境研究所

(以上、登録申請受付順)

## 【学術団体】

団体名 金沢美術工芸大学 ミャンマー伝統工芸支援プロジェクト	
URL <a href="http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/">http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/</a>	
代表者 工芸科教授 城崎英明	窓口担当者 金沢美術工芸大学付属造形芸術総合研究所 プロジェクト事務局 吉田伸宏
住所 〒920-8656 金沢市小立野 5-11-1	
電子メール <a href="mailto:kiz@kanazawa-bidai.ac.jp">kiz@kanazawa-bidai.ac.jp</a> 城崎 <a href="mailto:nyn@kanazawa-bidai.ac.jp">nyn@kanazawa-bidai.ac.jp</a> 吉田	電話番号 076-262-3531
<b>活動概要及び支援の実績</b> 2002～2004 年度 NGO 日本ミャンマー交流協会からの委託により、ミャンマーの伝統工芸振興のために支援活動を展開。自然環境に配慮したモノづくりの技術指導、デザイン指導、製品開発から、マンダレー管区サウンダー染織学校キャンパス内にミュージアム&ショップを開設。東南アジアの伝統的染織品の収集展示と、染織、漆芸、バスケットリーなど多様な手仕事を生かした製品の販売を行う。また、近隣国(タイ・ラオス・カンボジアなど)の伝統的工芸技術を調査、それらを生かした技術移転などにも取り組む。 2005～2008 年度 藍栽培など天然素材・材料の確保からさらなる新製品の開発、染織学校・漆芸学校との協力、日本の NGO との協力体制からマーケティングに取り組む。 2009 年度からは、ミャンマーを中心に近隣国を巻き込んだ、工芸的なエコロジーで高品質な近未来のモノづくりを目指し、指導者、技術者の人的ネットワーク構築を計画 中。	



## 【学術団体】

団体名 昭和女子大学(国際文化研究所)	
URL <a href="http://www.swu.ac.jp/graduate/research/kokusai/jica/index8.html">http://www.swu.ac.jp/graduate/research/kokusai/jica/index8.html</a>	
代表者 坂東真理子	窓口担当者 友田博通
住所 〒154-8533 世田谷区太子堂 1-7	
電子メール <a href="mailto:htomoda@swu.ac.jp">htomoda@swu.ac.jp</a>	電話番号 03-3411-6538/03-3411-5166
<b>活動概要及び支援の実績</b> メコンデルタは、19 世紀後期のフランス植民地化により果樹のプランテーションが急激に発展、その代表的な地区であるティエンザン省カイベー県は、運河が縦横に走り伝統的な大地主の館が散在する。本学は、2000 年科学研究費によりティエンザン省で 350 件の民家調査を実施、2002 年その内の1件チャン・キエット邸が JICA 開発パートナー制度に採択され、これを修復した。破損の進んでいたプランテーションの領主の館であった同邸を、本格的な日本の文化財修復技術により創建当初の形に修復復原し、その後メコンクルーズ観光の人気スポットとなった。また、この工事を請け負ったティン工務店は、ベトナム南部で唯一木造文化財建造物の修復工事ができると高く評価されるようになった。本事業は、ユネスコ文化遺産保存のためのアジア太平洋遺産賞、ベトナム文化情報大臣賞等を受賞した。	



【NPO 法人】

<b>団体名</b> 特定非営利活動法人 国際インフラ調査会 (NPO Japan Infrastructure Partners, JIP)	
<b>URL</b> <a href="http://www.idi.or.jp/jip/index.htm">http://www.idi.or.jp/jip/index.htm</a>	
<b>代表者</b> 小室 彬(こむろ あきら)	<b>窓口担当者</b> 小室 彬(こむろ あきら)
<b>住所</b> 〒102-0083 千代田区麴町 5-3-23 ニュー麴町ビル	
<b>電子メール</b> <a href="mailto:jip@idi.or.jp">jip@idi.or.jp</a>	<b>電話番号</b> 03-3263-7813
<b>活動概要及び支援の実績</b> 当会は2005年9月派遣専門家等の海外業務経験を有する有志が、開発途上国等の開発・インフラストラクチャーの整備管理についての協力を行うことを目的に2005年9月NPO法人として設立されました。会員は個人45名です。(H19年度総支出250万円) 活動の内容は、 (1)海外技術協力調査団の派遣 ①ミャンマー国に対して、2007年3月、2008年1月に道路舗装調査団を派遣し、公共事業庁やミャンマー工学会の技術者と意見や情報の交換、セミナーの開催、現地ワークショップの開催などを行いました。これ以外にもさまざまな交流を行っております。 ②ラオス国には、2008年2月道路舗装調査団を派遣し、公共事業運輸省、県の道路技術者と交流しまた現地調査を実施しました。その際 Letter of Minutes を相手政府と交換し、今後の協力を約しました。 (2)海外訪問による技術交流 当会会員は適宜海外を訪問し現地技術者と意見交換や技術情報の交換を行っています(ラオス、タイ、マレーシア等)。また、ミャンマー、ラオス調査団派遣の際には、現地技術者を中心に交流を行っております。 (3)会員内の技術情報交換を定例会(年6回)などで行っています。	

【NPO 法人】

団体名 認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ)	
URL <a href="http://www.baj-npo.org">http://www.baj-npo.org</a>	
代表者 根本 悦子(ねもと えつこ)	窓口担当者 川崎 典子(かわさき のりこ)
住所 〒151-0071 渋谷区本町 3-39-3 ビジネスタワー4F	
電子メール <a href="mailto:info@baj-npo.org">info@baj-npo.org</a>	電話番号 03-3372-9777
<p><b>活動概要及び支援の実績</b> BAJはベトナムの障害児支援をきっかけに、1993年にNGOとして出発しました。95年からは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と組んでミャンマーでの帰還難民の職業訓練事業やインフラ整備を、99年からは生活用水供給事業、女性の自立を目指す裁縫訓練などを行っています。ベトナムでは、貧困地域でマイクロクレジットや環境教育、さらに生活改善事業を、そして2003年には停戦合意の為にスリランカの復興支援活動を開始し、2007年まで活動しました。</p> <p>BAJの活動のキーワードは「技術」と「環境」、「住民参加」です。技術習得の機会を作り、収入向上の仕組みを作り、環境整備を行います。こうした事業を進めていく際に重要なことは「住民参加」です。話し合いを重ねながら、また経験を積んでもらうことで住民のエンパワーメントを高め、住民のなかからリーダーとなる人材を一人でも多く育成することが大きな課題です。</p>	

【公益法人】

<b>団体名</b> 社団法人 土木学会 アジア土木学協会連合協議会 (ACECC) メコン河流域相互開発に関する技術委員会	
<b>URL</b> <a href="http://www.jsce.or.jp/committee/acecc/">http://www.jsce.or.jp/committee/acecc/</a>	
<b>代表者</b> 東京工業大学 教授 日下部 治(くさかべ おさむ)	<b>窓口担当者</b> 土木学会 国際室 柳川博之(やながわ ひろゆき)
<b>住所</b> 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内	
<b>電子メール</b> <a href="mailto:yanagawa@jsce.or.jp">yanagawa@jsce.or.jp</a>	<b>電話番号</b> 03-3355-3452
<b>活動概要及び支援の実績</b> <p>メコン河流域相互開発に関する技術委員会とは、(社)土木学会のうちアジア土木学協会連合協議会(ACECC)内に設立された委員会です。</p> <p>本技術委員会は、日本を始め、アジアの各国代表とタイ、ラオス、カンボジア、ベトナムなどメコン河流域国の専門家を交え、環境・文化保全、流域開発、人材育成、防災等の情報交換を通じ、メコン河流域の活用・管理に関する国際協力のあり方について理解を深めることを目的としています。これまでにタイ、ラオス、カンボジアにて連絡会議を開催して活動を推進して参りました。</p> <p>また今年度の活動の一環として、2009年4月9日に(社)土木学会講堂においてメコン川流域の環境保全・開発と国際支援に関する国際シンポジウムを開催いたしました。</p> <p>(社)土木学会と ACECC が主催し、(独)土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センターと山梨大学 G-COE プログラム「アジアモンsoon域流域総合水管理研究教育」との共催で行ったものです。</p> <p>シンポジウムでは、「キャパシティビルディングと国際支援」、「流域の世界遺産保全と国際支援」、「流域開発、防災と国際支援」と題した3つのセッションで、流域国から5名(タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー)と日本から5名の講演者による講演と、それらに対する討議が行われました。</p> <p>会場がほぼ満員となる約140名の参加者を得た中で、国際河川という概念がない我が国への情報伝達と情報共有、および新しいネットワークの形成のきっかけになった点において本シンポジウムは大成功であったと考えます。</p> <p>本委員会では、今後も積極的なメコン TC 活動を継続するとともに、2010年8月にオーストラリアで開催される第5回アジア土木技術国際会議(CECAR)にて特別フォーラムを開催するなどして、その成果を広く発信していく予定です。</p>	



写真-1 講演者との写真撮影



写真-2 シンポジウム会場風景

～アジアの大河の将来を語る～

メコン川流域の環境保全・開発と  
国際支援に関する国際シンポジウム

2009年4月9日(木)

会場 (社)土木学会 講堂(東京・四谷)  
(東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内)

【参加費無料】

主催: 社団法人 土木学会(JSCE)

アジア土木学会連合協議会(ACECC)

共催: (独)土木研究所 水災害・リスクマネジメント  
国際センター

山梨大学 G-COE プログラム  
「アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育」

後援: (社)国際建設技術協会 (社)日本河川協会

プログラム

午前の部(9時00分～12時15分)

・開会式

・特別講演

「世界の水資源」, 丹保 憲仁 (北海道大学元学長)

・セッションⅠ:「メコン川流域の水資源、キャパシティビルディングと国際支援」

石平 博 (山梨大学): 分布型水循環モデルを用いたメコン川流域の水資源量評価

Chhouk Horng (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア): 水資源と国際支援

Sanda Thant (Mekong Institute, タイ): . 題目未定

午後の部(13時30分～18時00分)

・セッションⅡ:「メコン川流域の世界遺産保全と国際支援」

山口 しのぶ (東京工業大学): ラオス Luang Prabang 世界遺産タウンの持続的発展と管理のためのIT技術の応用

Ricardo Favis (UNESCO, タイ): メコン川流域の文化遺産の保全と管理の地域委譲

・セッションⅢ:「メコン川流域の流域開発、防災と国際支援」

山田 正 (中央大学): 題目未定

Pornwilai Pumira (Mekong Institute, タイ): 題目未定

Vimane Phoummavong (National University of Laos, ラオス): ラオスの新しい社会資本整備計画と専門家育成の現状

深見 和彦 ((独)土木研究所): メコン川流域における地域防災力向上に向けたICHARMの取り組み

・ACECC技術委員会報告とシンポジウムのまとめ  
日下部 治 (東京工業大学)

・閉会式

・このシンポジウムは、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

【NGO】

団体名 熊本国際化センター(KIC)	
URL <a href="http://mekon-daisuki.spaces.live.com/">http://mekon-daisuki.spaces.live.com/</a>	
代表者 理事長 谷川政敏 (たにがわ まさとし)	窓口担当者 同左
住所 〒154-8533 熊本市野中2-5-70	
電子メール <a href="mailto:karashirenkon@spice.ocn.ne.jp">karashirenkon@spice.ocn.ne.jp</a>	電話番号 096-325-4466 090-9598-0666
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>熊本国際化センターは、カンボジア和平後、同国の電気通信設備の復興に従事したNTT社員OBの北川氏(現地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)代表)からの協力要請で、地雷廃絶と犠牲者への義足支援から始まったカンボジアの復興支援を行うNGOです。</p> <p>その後、相互文化交流や同国からの留学生サポート、水の改善、孤児施設支援交流、企業への技術面のアドバイスなど活動を広げてきました。</p> <p>現在は、日本との歴史的取引交流の調査結果を評価した、同国政府から観光省顧問(大臣アドバイザー職)として、観光資源の開発や同分野に従事する人材の育成に取り組む傍ら、九州エリアとの経済交流推進を目指し、毎年の経済ミッションで徐々にその成果も出て来ています。</p> <p>&lt;近年の支援内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地雷被害者への義足支援、装具士の来日研修受け入れ</li> <li>・ 同国孤児舞踏団を招聘し県下で巡回公演、 経済界・国営放送・新聞社・文化人の招聘交流、 現地プノンペン大学・メコンバス会社への支援</li> <li>・ ASEAN交流年2003、日本カンボジア国交樹立50周年事業に文化訪問団を派遣</li> <li>・ 熊本城築城400年記念事業「歴史友好チャーター訪問団」を派遣、政府準備の「熊本公園」とプノンペン市庁舎で、両国列席者で県木「くすのき」を記念植樹</li> <li>・ コンポンスプーン州の温泉源の視察調査と成分分析結果を政府発表(政府開発案件になる)</li> <li>・ 08年経済ミッション訪問で、県内企業が進出を決定し09年から研修生を受け入れスタート</li> </ul>	

【公益法人】

団体名 財団法人 日本・ベトナム文化交流協会	
URL <a href="http://www.jvca.or.jp">http://www.jvca.or.jp</a>	
代表者 理事長 筒井 豊春 (つつい とよはる)	窓口担当者 藤澤 敏 (ふじさわ さとし)
住所 〒103-0027 中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルヂング6階	
電子メール <a href="mailto:info@jvca.or.jp">info@jvca.or.jp</a>	電話番号 03-3516-7177
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>■ベトナムのハノイ市でJAPAN・WEEK『日本さくら祭り in Vietnam2009』を4月10～12日の3日間ハノイ市のクアングアスタジアムをメイン会場にして開催。これまで、2回実施し、1万6千人、12万人の来場者があり、今回は、日本から、よさこい、花笠、玉すだれ、白拍子、そば打ちなどのチーム、日本映画、ファッションショー、企業ブース、大学留学ブース、日本の画家・写真家の展示会、講演会などで400名が参加予定。ベトナム国民15万人の来場者を見込む。</p> <p>ハノイ市建都999年を祝う祭事として、ハノイ人民委員会もサポート。両国の文化交流のイベントであり、参加者、出展者を募集中。</p> <p>■ハノイノスイチュック日本語センターを運営支援。これまでの16年間で、1万7千人のベトナム国民に日本語教育を実践中。企業への教師派遣にも取り組み、成果を挙げている。</p> <p>■ベトナム語サイト「<a href="#">SAKURA VIETNAM</a>」で、日本文化の紹介、日本の今を紹介するなど情報提供を実施中。</p> <p>■ベトナム青年招請事業で、ベトナム青年を日本に迎え、日本各地の視察、交流、ホームステイでの交流を促進中。</p>	

【NGO】

団体名 立命館アジア太平洋大学公認学生 NGO 団体 PRENGO			
URL <a href="http://www.apu.ac.jp/circle/prengo/">http://www.apu.ac.jp/circle/prengo/</a>			
代表者 代表 上田唯人(うえだゆいと)		窓口担当者 広報部長 村吉裕太郎(むらよしゆうたろう)	
住所 大分県別府市十文字原1丁目1番地			
電子メール <a href="mailto:yuitue07@apu.ac.jp">yuitue07@apu.ac.jp</a> 上田		電話番号 090-2021-4910 上田	
<a href="mailto:yutamu07@apu.ac.jp">yutamu07@apu.ac.jp</a> 村吉		090-5083-4226 村吉	
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>PRENGO は大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学の学生団体として2003年4月に設立した NGO 団体です。「地域住民主体による教育機会創出と教育環境の向上」という理念のもと、現在はタイ王国東部ラヨーン県 Huai Mahad 小学校と同地域の教育支援・地域開発を行っております。支援地域の住民が主体的に教育機会の創出と教育環境の向上が出来るよう、地域住民と児童に対し「教育」「経済」「保健衛生」という3つの分野から多角的に取り組んでおります。</p> <p>(ソニーマーケティング「学生ボランティアファンド」の助成対象に、2004年度から3年連続で採択されました。</p> <p>また2007年には外務省主催の日タイ修好120周年記念の公式助成団体としても認可されました。)</p>			
			

【一般団体】

団体名 THAI MIKASA CO., LTD.	
URL <a href="http://www.thaimikasa.com">http://www.thaimikasa.com</a>	
代表者 田中島 親(たなかじま ちかし)	窓口担当 速水 徹(はやみ とおる)
住所 338/19 Sukhumvit 22 Road, Soi Sainamthip, Klongtoey, Bangkok 10110 Thailand	
電子メール <a href="mailto:mikasa@cscoms.com">mikasa@cscoms.com</a>	電話番号 02-663-1515
<b>活動概要及び支援の実績</b> タイ国を中心に、近隣諸国のテレビ撮影をコーディネート。約30年に及び、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ベトナムにおいて、NHKから日本の民放テレビ各局の撮影の手伝いを行ってまいりました。	

【一般団体】

団体名 ボランティアグループ新原	
URL <a href="http://www.office-niihara.com">http://www.office-niihara.com</a>	
代表者 新原 慶子(にいほら けいこ)	窓口担当者 新原 慶子(にいほら けいこ)
住所 神戸市垂水区天ノ下町1-1ウエステ垂水307	
電子メール <a href="mailto:volunteer@office-niihara.com">volunteer@office-niihara.com</a>	電話番号 078-707-1484
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>6年前より、タイ王国の女性から教わったボランティア精神を基礎に、タイ王国との草の根交流活動を始めます。</p> <p>2007年、日タイ修好120周年記念事業の認定及び助成を受け、兵庫県神戸市内で、タイ青年ギターリストと障害者ピアニスト達のチャリティーコンサートを開催。2008年9月～10月には、タイ王国のチェンマイ Payap University で、日本人障害者ピアニスト参加による交流コンサートを開催。また、チェンマイの日本政府支援学校や日本政府支援障害者施設を訪問。日本人の障害者ピアニスト、高校生ボランティアも参加し、音楽交流会を行う。帰国後、電子ピアノを送付。2009年は、日メコン交流年2009事業のもと、3月30日～4月6日の日程で、更なる草の根交流を深める為、チェンマイとバンコクでのチャリティーコンサート及び施設訪問を企画。タイ王国の人々から教わる、心のやさしさ、人へのいたわりなど、私たち日本人は、タイの人との交流の中で学習していきたい。私たちボランティアグループ新原は、タイの人々から心の支援をいただいております。心&amp;LOVE つながり、大切に膨らませていきます。</p>	

【一般団体】

団体名 東京国際学園高等部 国際交流委員会	
URL <a href="http://www.tokyo-kokusai-gakuen.net">http://www.tokyo-kokusai-gakuen.net</a>	
代表者 荒井裕司(あらいゆうじ)	窓口担当者 高橋智明(たかはしともあき)
住所 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-43-8	
電子メール <a href="mailto:tomoaki@tokyo-kokusai-gakuen.net">tomoaki@tokyo-kokusai-gakuen.net</a>	電話番号 03-3370-0718
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>本学園の教育理念にある「一人一人の個性を伸ばし、国際化時代にふさわしい能力を発揮できる人材の育成」と「ボランティア精神の育成」を目的として、1996年以来、ラオスに学校を作る取り組みを続けています。これまで5校を設立し、現在6校目が着工予定です。学校建設資金は、文化祭での収益や校内に常時設置している募金箱、フリーマーケットへの参加などを通し、国際交流委員が中心となって活動し、学校資金を集めております。これまで、着工式や開校式に出席するため、過去5回にわたりラオスへ訪問し、延べ58名の生徒がラオスを訪問しました。2007年にはラオス大使館との共催で日本初の“ラオスフェスティバル”を開催し、来場者4万人という大盛況で終わりました。日々の委員会活動では、ラオス人留学生からラオス語や文化を学び、ラオスについての理解を深めています。こうした一連の活動が評価され、2008年の5月にはラオス国家主席令夫人を本学園にお迎えすることができ、令夫人と生徒との交流が実現しました。本年2009年3月18日よりボリカムサイ県に6校目を建設するため、ラオスを訪問します。</p>	

【一般団体】

団体名 名古屋城北ライオンズクラブ	
URL	
代表者 会長 高坂明男 (こうさか あきお)	窓口担当者 国際・LCIF・YE委員長 牧野俊一 (まきの しゅんいち)
住所 〒460-0003 名古屋市中区錦3-8-14	
電子メール <a href="mailto:nagoya-johoku@anl-meiden.com">nagoya-johoku@anl-meiden.com</a>	電話番号 052-962-3784
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>1995年、UNCRD(国際連合地域開発センター)の助言により、ラオス・ルアンパバン県シンゲン郡ナムカン地区の村落支援を開始した。</p> <p>本年まで小学校2校(ポンサアート小学校・パクベド小学校)の校舎建設、10ヶ村に簡易水道を建設、山間部5ヶ村に村落林の保全再生事業(日本政府・環境庁補助事業2001~2003年)、義務教育への育英資金援助(10年目)、スポーツ用具・移動図書館・ラオス語絵本の提供、小学校教員の研修活動援助、名古屋市立小学校とラオスの小学校との絵画交流などの事業をしてきた。</p> <p>毎年の現地訪問、ラオスの人々との交流を柱に労働力の提供や支援施設の維持管理に、村民の主体的な参加を求めつつ支援を積み重ねてきた。本年はLCIF(ライオンズクラブ国際財団)から交付援助を受けて小学校新校舎建設を支援した。村民の自助自立への足音が一層高まることを期待している。</p>	
	

## 【学術団体】

団体名 関西外国語大学「『ASEAN+3』大学コンソーシアム」	
URL <a href="http://www.kansaiigaidai.ac.jp/special/gp/gp2008_univ_e/">http://www.kansaiigaidai.ac.jp/special/gp/gp2008_univ_e/</a>	
代表者 豊田裕之(とよたひろゆき)	窓口担当者 藤田由美子(ふじたゆみこ)
住所 〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1	
電子メール <a href="mailto:Yumiko-f@kansaiigaidai.ac.jp">Yumiko-f@kansaiigaidai.ac.jp</a>	電話番号 072-805-2801(代)
<b>活動概要及び支援の実績</b> 「『ASEAN+3』大学コンソーシアム」は、平成20年度に教育Good Practice(「質の高い大学教育推進プログラム」として文部科学省が採択)に選定されたプログラムで、アセアン諸国+日・中・韓の学生交流を促進し、アジアの将来を担う「次世代国際人」の育成を目標とします。「英語」による学部授業で言語の壁を低くし、原籍大学と派遣先大学での学士号:「二重学位」の取得を可能にします。  ASEAN Plus Three: University Consortium is a program, selected as an Educational GP (Good Practice), aiming to foster Next Generation of Global Citizens who possess a wider understanding of countries and societies beyond the boundaries within Asia, and also beyond those boundaries in the wider world. The program's core is to offer the undergraduate courses in English language, which can lower the potential barriers on the Asian local languages and which enables students to acquire the undergraduate degree at both home and host institutions. It will help accelerating the exchange of human resources deeper and wider amongst Asian countries	
	

【一般団体】

団体名 株式会社日立プラントテクノロジー	
URL <a href="http://www.hitachi-pt.co.jp/">http://www.hitachi-pt.co.jp/</a>	
代表者 浜本眞司(はまもとしんじ)	窓口担当者 早田文隆(そうだふみたか)
住所 〒170-8466 東京都豊島区東池袋 4 丁目 5 番 2 号	
電子メール <a href="mailto:Fumitaka.soda.je@hitachi-pt.com">Fumitaka.soda.je@hitachi-pt.com</a>	電話番号 03-5928-8071 (人材開発本部)
<b>活動概要及び支援の実績</b> ＜溶接トレーニングセンターの開設・運営支援＞ ラオスのボケオ県フェイスに、ラオスに青年に溶接技術を教えるため、ラオス労働福祉省と弊社のコラボで、溶接トレーニングセンターを開設し、その運営も支援している。 ・日立プラントテクノロジー側の支援：研修機材(溶接機, 発電機等) & 研修立上時の消耗資材・教科書等の無償供与、新規生研修立上時の指導講師派遣(2週間)等 ・ラオス労働福祉省側の支援：土地・建物の提供、施設の運営・管理(生徒募集、日常運営等) 第一期生として、10名の研修生を迎え、2008/4/8に開校式を実施し、研修を開始。7/24には、この内7名が溶接技術を取得し、終了証を授与された。 ＜感謝状拝受＞ ボケオ県労働福祉省より、開校時と第一期生の技術向上のための追加講師派遣に対し、弊社に感謝状が2度授与された。	
	

【一般団体】

団体名 Oneasia (ワンエイジア)	
URL <a href="http://oneasia.jp">http://oneasia.jp</a>	
代表者 秋山岳久(あきやまたけひさ)	窓口担当者
住所 〒112-0002 東京都文京区小石川5-5-6	
電子メール <a href="mailto:vivi@oneasia.jp">vivi@oneasia.jp</a>	電話番号 03-6666-8373
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>日本とメコン地域間での音楽を通じた文化交流を実施。日本の音楽をメコン地域諸国に知ってもらい、メコン地域の音楽を日本にて広めるなど実施している。主幹となる日本人バンド「GYPSYQUEEN」を通じてその具現化を果たす。特徴はラオス語で歌うことであり、国内でも唯一のラオス語楽曲を歌うプロアーティストとして活躍を継続中。</p> <p>作品の中にはラオス語の名曲「Dan hang it sa la」などをCD化してラオス語の楽曲の紹介も実施。また、アジア全体の文化交流として現地の学校へ訪問して子供たちに音楽の楽しさを伝える活動も行っている。2003年日本アセアン年での公演活動をスタートにほぼ毎年ラオスでの公演を実施。特に2008年のワットプー大祭では15000人の観客を集め、日本の音楽文化とラオスの音楽文化の融合を図る。</p>	

【一般団体】

団体名 特定非営利活動法人ADRA Japan	
URL <a href="http://www.adrajpn.org">http://www.adrajpn.org</a>	
代表者 曾根田健二(そねだけんじ)	窓口担当者
住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1	
電子メール <a href="mailto:tokyo@adrajpn.org">tokyo@adrajpn.org</a>	電話番号 03-5410-0045
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>ラオスにおいて、現地の保健サービス向上のための中古救急車寄贈や、貧しい家庭の学童の通学支援のための中古自転車贈呈（500台）をしてきた。2006年からは日本人職員を派遣し、ADRAの現地支部であるADRA Laosと協力して、北部ルアンナムター県ロン郡において、山間地域に住む少数民族の食糧確保と安定した生計手段の構築を目的とした農業開発支援を実施している。国の政策や隣国の影響を受け、不安定な生活を送っている現地の住民が、「自立」した生活を営んでいけるように、知識や技術を提供するだけでなく、住民間の話し合いや組織作りに重点を置いている。</p> <p>その他、人材育成事業としてボランティア派遣事業を実施しており、日本の若者が現地でのボランティア活動や交流活動を通して、国際協力について学ぶ機会を提供している。</p>	

【一般団体】

<b>団体名</b> 特定非営利活動法人アジア教育友好協会 (AEFA:Asian Education and Friendship Association)	
<b>URL</b> <a href="http://www.nippon-aeffa.org">http://www.nippon-aeffa.org</a>	
<b>代表者</b> 谷川洋(たにかわひろし)	<b>窓口担当者</b>
<b>住所</b> 〒105-0014 東京都港区3-3-10芝園オーシャン8F	
<b>電子メール</b> <a href="mailto:kaneko@nippon-aeffa.org">kaneko@nippon-aeffa.org</a>	<b>電話番号</b> 03-6426-0720
<b>活動概要及び支援の実績</b> <p>2005年より、主に南部サラワン県山岳地帯及び離村の少数民族の子どもたちのために、小学校を建設。2009年度末までに、18校(小学校17/中学校1)を建設完了予定。平地に比べ圧倒的に貧しく学校も足りない山間部では寮を併設、より多くの子どもたちを受け入れている。</p> <p>建設には村人が参加、教育への意識を高めるとともに「おらが村の学校」として、学校が村の中心となっている。建設後の自立運営を確立するため、学校菜園や養魚などの課外活動を導入。子どもたちや村人が農業技術を身に付け、最終的には地域振興につながることを目指す。また、「学びの場」としての充実を図るため、教員向けに学校経営や指導法の研修会を毎年開催・ボランティア教員への給与支援・不足している教科書や文房具支援・貧困から学校に通えない子どもたちのためにお米奨学金支援等を行い、継続して見守っている。</p> <p>併せて、日本の学校と「フレンドシップ交流校」として結び付け、双方向の交流を支援。絵や手紙等の作品交換や、AEFFAによる出前授業を通し、日本の子どもたちに水や食べ物、学べることの大切さなど、共に生きることや様々な気づきのきっかけとなっている。</p>	

【公益法人】

団体名 財団法人太平洋人材交流センター (PREX:Pacific Resource Exchange Center)	
URL <a href="http://www.prex-hrd.or.jp">http://www.prex-hrd.or.jp</a>	
代表者 井上義國(いのうえよしくに)	窓口担当者
住所 〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24piaNPO5階502号室	
電子メール <a href="mailto:prexmail@prex-hrd.or.jp">prexmail@prex-hrd.or.jp</a>	電話番号 06-4395-2650
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>太平洋人材交流センターは、1990年4月の設立以降、開発途上国の人材育成事業とその活動を通じての国際的人材交流促進に努めている。設立以降、アジア・太平洋地域諸国を中心した途上国の発展を担う中堅マネージャーなどを対象に産業振興関連の研修を実施しており、19年間で延べ432コース、124カ国12,374人が参加した。メコン地域からは、2333人(訪日研修557人、現地セミナー1776人)が、JICA「中小企業政策コース」、JICA「日本センタービジネスコース」、関経連「アセアン研修」、JICA「メコン地域観光振興コース」などに参加した。</p> <p>訪日研修参加者を中心に13の国・地域にPREX同窓会が設立され、会員数は2,000人を超えている。</p> <p>メコン地域では、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムでそれぞれ同窓会が設立されており、会員数は432人である。</p> <p>PREXでは、研修事業で得られた人的ネットワークを大切に、情報提供や交流を継続している。現地を訪問する同窓会フォローアップ事業では、懐かしいメンバーが集まり新たな研修への要望などが寄せられる。</p>	

【政府機関】

団体名 千葉県八千代市	
URL <a href="http://www.city.yachiyo.chiba.jp/">http://www.city.yachiyo.chiba.jp/</a>	
代表者 豊田俊郎(とよだとしろう)	窓口担当者 山本真由香(やまもとまゆか)
住所 〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5	
電子メール <a href="mailto:kokusai@city.yachiyo.chiba.jp">kokusai@city.yachiyo.chiba.jp</a>	電話番号 047-483-1151
<b>活動概要及び支援の実績</b> 「ふるさと創生1億円事業」として始まった八千代こども国際平和文化基金事業は、次代を担う子どもたちが世界に目を向け、平和の大切さを知り、他国の文化を尊重する心を養うことにより、世界に貢献する国際人になって欲しいという期待を込めた人材育成を目的としています。この目的のために、①国際理解事業②国際文化交流事業③国際協力事業という3つの柱を中心に事業を展開しています。 平成16年には、八千代市とバンコク都の双方で歴代こども親善大使の会が発足し、それぞれ訪問先で交流を深めるなど、活動を続けています。このような活動の広がりが評価され、平成17年度地域づくり総務大臣表彰（国際化部門）を受賞しました。 交流が20年という節目を迎えた昨年5月、この事業の継続と教育・文化などの幅広い交流を目指して、八千代市とバンコク都は友好都市提携協定を締結しました。	

【一般団体】

団体名 国際歯科学士会日本部会(International College of Dentists, ICD)	
URL <a href="http://www.icd-japan.gr.jp/">http://www.icd-japan.gr.jp/</a>	
代表者 齋藤 毅(さいとう つよし)	窓口担当者 中島または原田
住所 〒161-8558 新宿区下落合 2-6-22 一世出版(株)内	
電子メール <a href="mailto:secretary@icd-japan.gr.jp">secretary@icd-japan.gr.jp</a>	電話番号 03-3952-5155
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>ICD Myanmar Region と Japan Section との交流について:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2006 年度:ICD Myanmar の人道支援プログラムとして, 劣悪な飲料水状況の村に、水汲みポンプと貯水タンクの寄贈, ヤンゴン大学歯学部へ学生図書購入費を寄付</li> <li>2. 2007 年度:ICD Myanmar の人道支援プログラムとして, 村人の生活道路舗装費用の寄付と, 防衛医科大学歯学部へ消毒器機を寄贈, 水汲みタンクの使用状況視察, Myanmar Region の認証式に出席</li> <li>3. 2008 年度: ICD Myanmar の人道支援プログラムとして, 国防医科大学歯学部へ器機購入式を寄付, 生活道路舗装の完成状況視察, Myanmar Region の認証式に出席</li> <li>4. 2009 年度: ICD Myanmar の人道支援プログラムとして人道支援プログラムに寄付の予定</li> </ol> <p>。</p>	

【政府機関】

団体名 独立行政法人 国立環境研究所	
URL <a href="http://www.nies.go.jp/">http://www.nies.go.jp/</a>	
代表者 大垣眞一郎(おおがきしんいちろう)	窓口担当者 福島路生(ふくしまみちお)
住所 〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2	
電子メール <a href="mailto:michio@nies.go.jp">michio@nies.go.jp</a>	電話番号 029-850-2427
<p><b>活動概要及び支援の実績</b></p> <p>(独)国立環境研究所とメコン河流域国のいくつかの研究機関が協力しあい、これまで個別に蓄積されてきたメコン河の淡水魚類の分布や回遊に関するデータ、流域の自然環境に関する様々な地理空間データ、そして急ピッチで進むダム開発に関するデータなどを整備し、統合しようとしています。そしてそれらのデータに加え、新たに現地調査から生物学的情報を取得し、これらを総合的に解析することで、すでに建設されたダムの魚類多様性と漁業資源への影響を定量的に評価する予定です。さらに、メコンの本流や支流に建設が計画されている数多くのダムについても、建設に伴う生物多様性低下と漁業資源の減少というリスクを、流域全体で分かりやすく地図で示し、そのリスクを最小限にとどめるダムサイトの選定など、具体的な影響緩和に向けての政策提言を行います。これまで一部の専門家にしかアクセスまたは理解できなかった既存の統計データなどについて分かり易く整理し、科学的にその意味を解き明かすことにより、メコン流域の水資源開発政策の向上に役立てるための活動を行っています。</p>	